

計算スキルに必要な微細な技術

漢字スキルのことを前回書いたので、今回は「計算スキル」(教育出版)の仕方について書きます。

一番大事なことは、子どもたちの「空白状態」(何もすることがない・何をしてもいいかわからない状態)をなくすことです。すべての授業がそうですが.....。

特に低位の子どもたちの空白状態を防ぐことが重要です。

以下、教室でやっているそのまますを記録していきます。

また、()内は、子どもの状態やなぜそうするのかということを補足的に書いていきます。

私の場合はどのページであっても、かっきり残り7分で指導する。子どもの実態に合わせて時間を変えるなんてのは、子どもに優しいようにいて緊張感をなくしたり、教室を荒れさせる原因になる。

- 1 『スキル 番を開きなさい』(早い子はさっと開く。遅い子はまだ)
- 2 『、分数の割り算とかけ算』(ここで遅い子はついてくる。無駄に表題をよんでいるわけではない)
- 3 『時間2分。勉強した日11月30日』(2~4分と書いてあっても、「2分」を選ぶ。そのために、コース選択がある)
- 4 『コースを選びなさい』(早い子はさっと選ぶ。遅い子はまだ)
- 5 『ゆっくりじっくりやりたい人は1問コースひとつ100点。超特急でやりたい人は、5問コースひとつ20点。どちらのコースをえらんでも100点に違いはありません。かけっこでも水泳でも、遅い人もいれば早い人もいる。大事なことは100点を取ることです』(なぜ1問コースの100点も5問コースの100点も違いがないのか、それは問題配列を見れば分かることです。けっして、お世辞やごまかしではありません)
- 6 『早くできたらやってみようは、まだやりません。それで用意はじめ!』
- 7 『1分たちました。のこり1分です』(優しく言います。特別な配慮が必要な子には、キツイ言葉が刺さります)
- 8 『やめ。赤鉛筆に持ち替えなさい』(持ちかえられない子には、そっといって持ち替えさせてあげる)
- 9 『5番答え、』(後ろから答合わせをします。なぜでしょうか。考えてみてください。ちなみに、5, 4, 3番までは相当早く答合わせをします。2番ゆっくり。1番は相当ゆっくり。)
- 10 『点数を入れなさい。100点だった人?』(何コースでもいいから、100点を取った人を聞く)
- 11 『すごいなあ、よくできたなあ!』
- 12 『残り2分で、残っている問題チョースピードで全部やります。よーいスタート!!』
- 13 『できました』『ちょっと待ってなさい』(できた子が1/3くらいまでは待たせておいてよい)
- 14 『できた人は自分で答を見て、確認しなさい』
- 15 『2分たちました。全員やめ、答合わせをしなさい。間に合わなかったところはうつしておきなさい』
- 16 『先生答合わせも終わりました!』『ちょっと待ってなさい』(できた子が1/3くらいまでは待たせておいてよい)
- 17 『答合わせが終わった人は、シールを貼って』(ご褒美じゃないですよ。時間調整です)
- 18 『それでは、まだの残っている人はあとでやっておくんですよ。学期の終わりにすべて先生がチェックしますから、今やってもいいし、全部まとめてやってもいい。後でとにかく全部やってあるかどうか先生は見ますから』(今やっちゃおう、とたいいていの子は言う。だって後ちょっぴりしかのこってないですから)

もし不明な点があれば、どんなことでもご質問下さい。